

ふるさとの昔話

柚木のお不動さん

柚木の旧東海道沿いに、今でも手厚く信仰されているお不動さんがあります。今回は、このお不動さんのいわれを、柚木の福島清二さん（六十三歳）に伺いました。



▷福島さん



お不動さんに移す

明治の終わりごろのことです。

岩本に「ほうえんさん」という信心深い人がいました。「ほうえんさん」は古くから伝わるお不動さんを守っていた人で、お供の人と二人で小さいおりに住んでいました。二人はあちこちの村を回っては、米や野菜などのお布施をいただいで、生活をしていました。ところが、時代が大正になったころ、お不動さんのほこらは移らなければならなくなりました。

信仰心の厚い人々

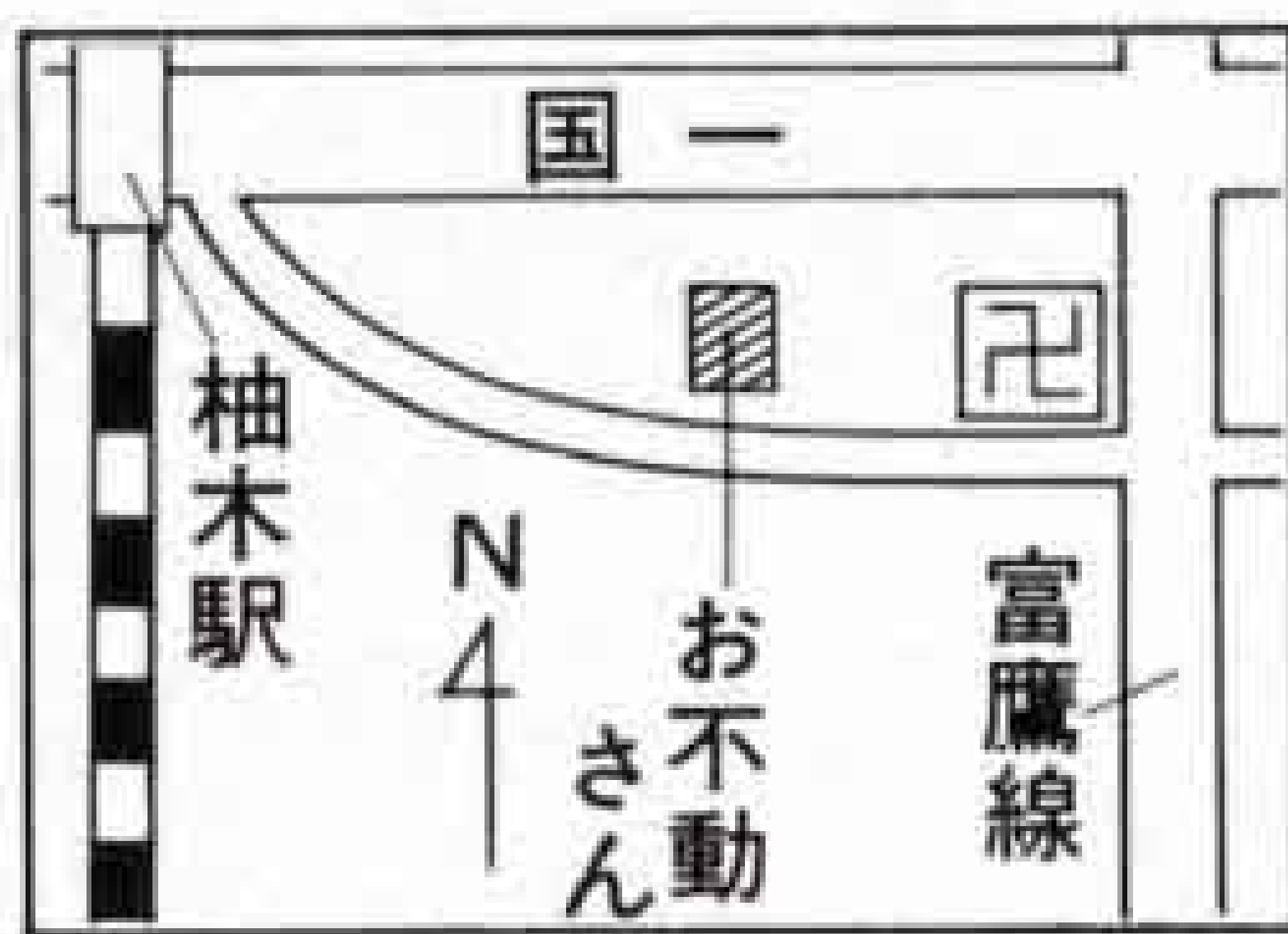
そんな話を耳にした柚木の住人福島太郎さんと伊藤政太郎さんは相談して、お不動さんをもらい受けることにしました。二人が、東海道沿いにほこらを建てて、丁重にお祭りすると、もともと信仰心の厚い近所の人もいつしかお参りするようになりました。以来、毎月二十八日になると、

今でも人が集まっては供養が続けられています。

地域の守り神

厨子に納まったお不動さんは、台座から光背まで高さが約五十七センチ。光背の朱が鮮やかな塑像です。

福島さんは「私は平安時代の作じゃないかと思っているよ。お不動さんは柚木の守り神で、みんなが手厚く信仰するようになってからは、東海道もこの辺じゃ大きな事故がないね。昔は、周りに井戸や火の見やぐらもあって、コミュニケーションの場所でもあったんじゃないかな。現在は区で管理をしているよ」と語ってくれました。



▷お不動さん

地名の由来

じま かん 五 貫 島



明治二十二年（一八九）までは五貫島村と呼んでいました。一説では、古郡氏の新田開発で生まれた加島五千石が、五十石足りなかつたので、さらにこの地を五十石開墾したことから、五貫文の地、つまり五貫島と呼んだということ。別の説では、江戸時代の初め、だれかがこの地を開発して、五貫文の知行地として与えられたからとも言われます。

こちら編集室

吉原にあった映画館東座がいつの間にか廃業してしまい、市内の映画館はついに三館に。映画ファンならずとも、やはり寂しい。これだけビデオが普及すればやむを得ないと思うが、同じ作品をビデオと映画で見比べれば、その差は歴然とする。映画もやっぱり文化。ビデオよりお金と暇がかかるけど、なんとか盛り上げる方法はないだろうか。



市民憲章

1. 富士山のように
たくましく働くよるこびをもち
健康な家庭をつくります



六月に開館 ラ・ホール富士

勤労者の皆さんが集い、楽しむ施設「富士市勤労者総合福祉センター」が、いよいよ6月にオープンします。

場所は市役所の東、元の警察署跡地で、「ラ・ホール富士」という愛称もつけられます。うす茶色の建物は7階建てで、この種の施設としては全国一の規模を誇ります。

中には、トレーニングルームや情報コーナー、文化教養室、工芸実習室、音楽室、レストランなどが備えられ、文化・レクリエーション活動の中心施設といえます。

使用料は使用する部屋や用具ごとに定められています。情報コーナーではビデオや音楽の鑑賞が無料で楽しめます。どうぞお楽しみに。